

2014 いなみ人権・福祉フェスティバル

国際連合は、昭和25年（1950年）の第5回総会において、世界人権宣言が採択された12月10日を『人権デー』と決めました。法務省と全国人権擁護委員連合会は、毎年12月10日の人権デーを最終日とする1週間を「人権週間」と定め、人権尊重思想の普及高揚のための啓発活動を全国的に展開しています。

また、平成16年（2004年）の障害者基本法の改正により、毎年12月3日から12月9日は『障害者週間』と定められています。

稲美町においても、心のふれあう温かい人間関係を築き、お互いの人権を尊重する明るいまちづくりをめざして、下記のとおり《2014いなみ人権・福祉フェスティバル》を開催します。

とき 12月6日（土） 9:40～11:50
ところ いなみ文化の森 コスモホール
 （受付 9:10～）

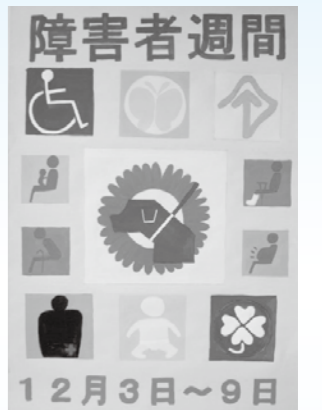
（主催）稲美町、稲美町教育委員会
 （共催）稲美町社会福祉協議会
 （後援）稲美町人権・同和教育研究協議会、神戸地方法務局加古川支局、加古川人権擁護委員協議会

《表彰式》平成26年度「障害者週間」啓発ポスターコンクール 表彰受賞者

優 秀 賞	天満東小学校	4年	三俣 彩桜さん
	稲美中学校	2年	新田 麻妃さん
入 賞	加古小学校	1年	黒瀬 彰大さん
	天満南小学校	3年	小山裕太郎さん
	天満南小学校	6年	竹原 桃花さん
	稲美中学校	2年	木原 瑠梨さん
	稲美中学校	3年	橋本 和さん
	稲美北中学校	1年	池野 真結さん



優秀賞 三俣 彩桜さんの作品
 （天満東小学校4年）



優秀賞 新田 麻妃さんの作品
 （稲美中学校2年）

12月3日（水）～9日（火）ふれあい交流館
 ロビーにおいて、全応募作品を展示します。

《人権作文朗読》第34回「全国中学生人権作文コンテスト」兵庫県大会
 加古川・高砂・稲美・播磨地区予選優秀賞受賞

「障害者について」 稲美北中学校1年 村田 みら乃さん

《講 演》「天国にいる娘が教えてくれたもの」 講師 山中 信彦さん
 「音楽が与えてくれた出会いと学び」 石田 裕之さん

プロフィール

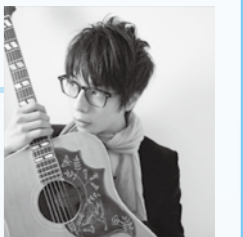


山中 信彦さん（NPO法人いぬいふくし村副理事長、いのちのうた代表）

篠山市出身・在住。娘（瑞穂）さんが生後まもなく脳炎を発症し、身体障がいと知的障がいが残る。会社を辞め旅行会社を経営するかたわら瑞穂さんの成長を見守ってきた。福祉事業所「いぬいふくし村」を設立し、丹波篠山の地に福祉の種を撒き、育てるとともに、全国で人権・福祉の講演活動を行っている。

石田 裕之さん（シンガーソングライター）

神戸市出身・在住。アコースティックギター片手に神戸から全国へ向けて「人と地域と自然」に優しい音楽を発信するシンガーソングライター。環境分野、防災・復興支援、人権分野等でコンサート、音楽プロデュース、講演、テレビ・ラジオ出演、大学講師と幅広く活躍中。現在は、東日本大震災のボランティアとして毎月、宮城県石巻市と女川町を訪れ、支援活動も行っている。



《模擬店》クッキー、手作り作品などの販売（正午頃まで）
 出店 ワークルームふれあい、らいふサポートくるみ

12月3日（水）～9日（火）は、『障害者週間』、12月4日（木）～10日（水）は、『人権週間』です

「障害者について」

稲美北中学校 1年 村田 みら乃の

私の町に、社会人の障害がある方が住んでいます。ある日、小学生が「何で一人でしゃべってん？」「何で歌ってん？」と、聞いていました。

以前から私も、なぜかなあ？と思っていました。その日をきっかけに、「自閉症」や「ダウン症」についての本や漫画を読み始めました。

「自閉症」の本には、普段歩いているルートを急には変えられないことや、新しい環境になると、落ち着かずパニックになったりするなどと書いてありました。

それを読み、いつもこの場所では歌うって決めているんだなあーと思いました。

毎日毎日会うたびに、私は自分自身が家族・親という立場だったらどうなっているだろうかと考えます。

イライラしても手出しせずに見守ってあげられるだろうかと考えてみると、たくさん大変なことがあることがわかりました。

今は社会人だから、少し落ち着いてきたかもしれないけれど、幼稚園や小・中学校のときは、周りの人たちは大変で苦労してきたんだろうなと思いました。

私は、日頃からかわかっていないので、何か手伝えることはないかな？と、思います。当然、その人の特徴があるから、何でも手伝えるわけはありません。

でも、ちょっとしたことが役に立つのであれば、私は一杯やりたいと思います。そんな考えが、去年役に立ちました。

それは、同じ学校に障害がある子がいたということでした。

私のペアの子ではなかったのですが、業間、ペアの子たちと遊んでいるとその子がいました。

でも、一人ぼっちでした。私は、その子をほっとくのはかわいそうだなと思い、「一緒に遊ぼう！」と手をつなぎ、みんなのところに連れて行きました。

障害のない子ができて、その子ができないということの方がたくさんあり、私はどうフォロワーしてあげればいいかなあ？。どんなことだったかできるのかなあ？と思い、あせってしまいました。

みんなと走る競争をするときは、私がおんぶして走ったりしましたが、できることはやらせてあげました。

その時の可愛い笑顔を私は一生忘れません。

その子は、達成感のある満了した顔でした。

私はその顔を見たとき、障害について勉強していた良かったなあと思いました。

本人の思っていることが分かるっていいじゃないかと、その子が楽しくしてくれただことが、すごくうれしかったです。

また、車椅子を使っている子も、自分ではあまり車椅子を動かさなくて、いつも先生に手伝ってもらっています。

時々、「手伝って」と言われることがあるけど、上手く車椅子を動かせません。

障害がある人たちは、私をどう見ているのかなあと思います。

じゃまだなと思っっているのか、ありがとうと思っっているのか、そう考えると自分だけが良くて、人がいやな気持ちを持っているとしたら、どうしたらいいのかな？と思います。

障害がない人の心は読めません。

だから、障害がある人の心を読むのは、さらに難しい事だと思っています。

特別支援学校の先生とかは、どう努力しているのかな？と思うと、私はその先生達を尊敬します。

どう思っているか分からない子達に、いろいろなことをイライラせず落ち着いて指導していること、私にはそんなことはできません。

本当は、私に「障害者」について考えてきて、もっともって勉強して、いつか障害がある子たちを指導できるようになりたいです。